

日本女大人間生活研 ○邱魏 津 大野静枝 藤村明子

目的 暑熱環境に順応した台湾人と日本の環境に順応した日本人各1名について、着装形態並びに負荷が生体に及ぼす影響について比較検討した。

方法 実験期間は平成5年8月20日～27日で、実験場所は台湾南部高雄市である。測定項目は皮膚温（前額、上腹、大腿、上腕、背）5部位、鼓膜温、血圧、心拍数、局所発汗量、全発汗量、感覚量（温熱感、湿潤感、快適感、着心地）である。被服の着装形態は現在の台湾における女子の農作業の2形態を用いて行った。実験場所は空調した室内と、直射日光下の室外の2箇所である。負荷条件は、室内においてはステップ負荷、室外においては農作業の草刈を行った、負荷時間は20分間である。

結果 皮膚温、発汗量、心拍数、感覚温については、台湾人と日本人との間に差がみられ、暑熱順応した台湾人の暑さに対するの適応性がよいことが示された。